

平成 29 年度 第 3 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

岡田公治 井沢澄雄

3rd Activity Report, June 2017: Committee of Study Groups

Koji Okada Sumio Izawa

研究委員会では個別テーマ毎での研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 29 年 6 月 1 日現在の各研究会活動の予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査：横山 真一郎 東京都市大学)

本研究会は、QFD (Quality Function Deployment : 品質機能展開) の考え方を援用することにより、情報の共有、知識の蓄積などを可能とする論理的なプロジェクト計画作成のための手法、方法論を検討することを目的に研究を行って来ました。最近では、QFD のみならず、プロジェクトにおける情報の定量化やシステム設計、さらにリスク分析など、QFD と関連の深い分野に関しても積極的に取り組んでいます。研究会の成果物は、研究発表会や国際会議において発表し、論文投稿を研究会員に奨励しています。現在は、プロジェクトの定量的管理を中心とした研究テーマでの議論を行っています。

<6 月以降の予定>

- 6 月 23 日：定例会開催予定
- 7 月 21 日：定例会開催予定
- 8 月 25 日：定例会開催予定

(2) リスク・マネジメント研究会 (体制見直し中)

本研究会では、研究内容を国際会議 (ProMAC) で発表するなどの活動を行ってきました。本年度は、さらなる研究を進めるために、新しい研究テーマを決め、新体制での研究活動を準備中です。次号では、本年度の研究テーマをお知らせし、新規メンバーの募集を行う予定にしております。

<6 月以降の予定>

本年度の研究テーマを設定後に定例会の日程を確定し、ご案内いたします。

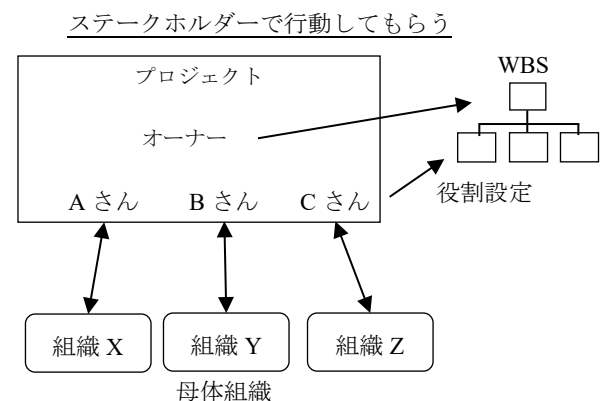
(3) PM 人材育成研究会

(主査：池田 修一 ポジティブ・ラーニング)

これまでステークホルダーについて継続して議論を行っており、前回はプロジェクトにかかわる

ステークホルダーの意識について、「組織側のプロジェクトへの意識」と「個人の価値観」の 2 つについて検討を行いました。

今回はこのうち、「個人の価値観」についての議論となりました。まず価値観とは、「いかなる物事に価値を認めるか」という個人個人の評価的判断、「物事を評価する際に基準とする、何にどのような価値を認めるか」という判断」という意味であり、どのようにプロジェクトに参加する個人がプロジェクトに対して価値を求めるかを PM が初期段階で認識する必要があるということです。これは PM として各個人が如何にプロジェクトで行動してもらえるかを検討するために必要となります。



行動してもらえるようにするためには、

- ・役割の設定
- ・モチベーション
- ・組織と個人の意向

を PM として意識することが重要ではないかと考えました。このうち、「役割の設定」に関してはプロジェクトの目標、スコープから WBS を設計し、各ステークホルダーを割当てることができます。次回は「組織と個人の意向」について議論していく予定です。

<6月以降の予定>

6月30日：定例会開催予定

7月28日：定例会開催予定

8月30日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmcom2016@freeml.com

(4) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システム)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として、毎月1回の定例会と年1回の国内外各地におけるワークショップを中心に活動しています。

メンタルヘルス不調に陥らない為にはどうしたら良いか。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。

定例会は原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。5名から10名程度のメンバーが参加し、プレゼンター（持ち回り）が議題を提示します。参加メンバーの対話を通して、メンタルヘルス問題の予防策となる知恵の創造を図ります。お気軽に体験参加してください。



5/17の様子

この紙面には書き切れていない「メンタルヘルスに対する想い」等を掲載しておりますのでホームページの方にも是非お立ち寄り下さい。

<https://www.spm-hq.jp/committee/kenkyu/?id=113>

(研究委員会ページです。)

<5月の活動実績>

5月17日：定例会開催

① 2017年ワークショップの検討

本年のワークショップ開催について、開催場所や開催時期の概要を検討しました。

② メンタルヘルス事例をもとにした勉強会

多くのプロジェクトの中で、メンバーが、メンタル不調により十分に戦力として活躍できなくなることがあります。そのような場合、事前

／事後のそれぞれのフェーズで上司／同僚は何かできるのかを、事例をもとに議論しました。

鍵は「周囲がいかになして気づき、支えあえるか」です。NIOSHモデルや、チクセントミハイ氏のフロー理論に照らし合わせて検証を試みました。

一方、性格上合わない仕事をやり続けなければならないと思いこみ、日本の会社環境やビジネスシーンにも問題がありそうです。

③ IT系プロジェクトマネージャの熟達プロセスの探索的検討

IT系プロジェクトマネージャに対してのインタビューやアンケートを行った研究論文を参考に、プロジェクトマネージャの熟達プロセスについて議論しました。

④ 心と脳をいやす生活の仕方と考え方

感情コントロールには、普段の心掛けが大事なようです。

- ・「できない仕事がある」「悲しい出来事は存在する」に気づくこと。

- ・マイナスの感情が心に浮かんた際に、意識的に楽しいこと、嬉しいことにスイッチさせること。

- ・「大丈夫うまくゆく」「面白くなってきやがった」と自分自身に言い聞かせること。

言葉の「心を平穏に保つ力」を感じることができました。

前田主査のお話はいつも大変面白いのですが、長くなりがちなのが玉にキズ。今回も参加者全員で「全力で」割って入り込みました。

<6月以降の予定>

6月21日：定例会開催予定

7月19日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(5) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

現在の学習・研究テーマとしては以下の5つになります。

- ① 要求を仕様化する技術

- ② R言語の学習と活用

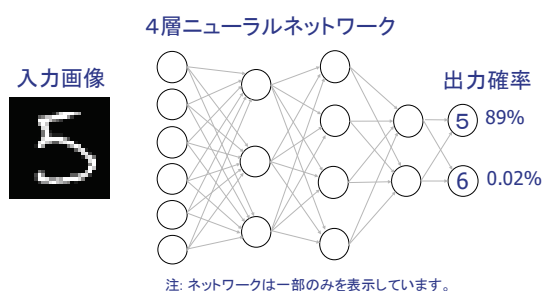
- ③ アナリティクス手法の学習と活用

- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析

- ⑤ 人工知能と機械学習

5 月より、古典的な統計解析手法に加えて、人工知能と機械学習もテーマとして学習を進めています。予測と判断のための手法として、目的は従来型のアプローチと同じですが、非線形の問題にも柔軟に対応できる点などの特徴があり、その使い分けを追求しています。

特にディープラーニングによる画像認識は、今後の応用が期待される分野であるため、基礎的な学習から初めています。図は 4 層のニューラルネットワークを使って手書き数字を認識する原理を示しています。この入力画像の場合、例えば数字が 5 である確率が 89%と計算されました。



<6 月以降の予定>

6 月 13 日：定例会開催予定

7 月 11 日：定例会開催予定

8 月 8 日：定例会開催予定

会合は 1 回／月（原則として第 2 火曜日 18:30~20:30）開催しています。

当研究会では現時点までの活動で、Capers Jones 氏の見積のすべて、Excel 統計、コスト評価知識体系 (CEBoK)、要求の仕様化技術、R 言語による分析事例、データマイニング手法などのコンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

人工知能も独学では学びにくい面もありますが、参加者の知識やアドバイスを参考にしながら効率的に学習できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

【詳細問合せ先】kajiyama@yhat.co.jp

(6) フロネシス PM（知恵ある実践）研究会

（主査：中村 太一 国立情報学研究所）

2012 年 10 月に発足した当研究会は、プロジェクトマネジメントのフロネシス的アプローチ、特

に社会・文化的な環境要因がプロジェクトマネジメントに与える影響についての探求を主たる目的にして、活動を続けています。4 年強にわたる活動では、月一度のグローバルに活躍するゲストを招聘しての定例会、海外でのワークショップ、学会誌への研究活動の投稿などの活動を通して、プロジェクトマネジメントと文化の関係性の見識を深めています。現在は、暫定的に隔月の例会開催になっており、5 月 18 日に第 41 回の例会が開催されました。まず、参加者全員から近況報告を兼ねたフロネシスに関する話題の提供をいただきながら活発な意見交換が成されました。その後、large IT outsourcing company である FPT Japan – Branch of Viet Nam's FPT Software – FPT group の Delivery Manager/Presales であられる Vo Duc Thang 氏からベトナムと日本のビジネス慣習の違いについての講演をいただきました。Vo 氏は、日本在住 11 年、日本語が堪能で、この春、産業技術大学院大学の修士課程を卒業されています。

ベトナムは日本と同じようにハイ・コンテクスの文化であるが、日本より個人主義の色が濃い、発展途上の若い国であるため、まだまだビジネスのプロセスや、ルールが個人レベルで浸透してなく、どちらかという上司の指示待ちの姿勢があり、自主的に仕事をする姿勢を身に付けるのはもう少し時間がかかるようであるとのこと。仕事のモチベーションは、報酬などの外的要因より、人間関係の良さが重視される傾向がある、など、興味深いお話を聞くことができました。これから日本とベトナムのビジネスの交流は、ますます盛んになるからにして、Vo 氏のように両国の架け橋的な役割を果たしている人財から直接話を聞けるのは、研究会のメンバーにとって、とても良い出会いでありました。

<5 月以降の予定>

7 月 20 日：定例会開催予定

2. その他

活動中の研究会への新規参加や、新規研究会活動に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】pmkenkyu@spm-hq.jp

研究委員会委員長 岡田 公治

研究委員会副委員長 井沢 澄雄

研究委員会委員 高田 淳司